

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071501078
法人名	医療法人 光輪会
事業所名	グループホーム フェニックス苑
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市新町395番地 (電話) 0944-56-5588

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月31日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	4.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート葺造り 2階建ての1~2階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.6歳	最低	75歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田セントラル・クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームフェニックス苑は、木造建築で家庭的な環境を提供し、入居者がその人らしく過ごすことを目標に、日々取り組んでいるグループである。玄関に面した庭は、グループホームの名前の由来でもある大きなフェニックスの木があり、木々に囲まれた環境の中、入居者の気分転換や癒しの場となっている。入居者のこれまでの生活の場とあまり変わりがない共有空間や居室は、入居者一人ひとりが安心して過ごせる穏やかな居心地良い空間となっている。また、個別のケアを重視した介護計画や記録がよく整理され、運営母体が医療法人であるため医療との連携による健康管理が行われ、家族にとっては大きな安心となっている。日々のケアは入居者個々の残存機能の保持・趣味・特技を活かし、季節感のある行事や庭での作業を通じて、暮らしのリズムに配慮し暮らしの中での楽しみや喜びを支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、アセスメントツールの検討 地域との連携 重度化・終末期の対応など課題が挙がっていた。アセスメントは、現在、センター方式を採用しており、介護計画・モニタリングへの反映が合理的かつ的確であり、共有しやすい書式に改善されている。重度化・終末期に関する方針や同意書は現在準備を考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票は全職員で行い、外部評価の意義を理解している。外部評価により、日々のケアやサービス提供を行う中で職員の責任感とチームワーク力が強化されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではホームの現状報告や評価結果・今後の課題などについて積極的な意見交換を行っている。また、運営推進会議では、「身体拘束」「鍵の取扱い」「熱中症・脱水症について」など学習の機会としても活かし、ケアやサービスの質の向上も図っている。今後は更に地域密着型サービスとして、地域へ向けて認知症の理解を育む活動などを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	2ヶ月に1回、家族会を開催し、意見交換をもとに改善に努め、運営面の充実を図るように取り組んでいる。運営推進会議においても、家族代表の参加があり、意見や意向を言ってもらえるよう取り組んでいる。また、家族からの意見は、職員教育として位置づけ、家族の意向や意見を尊重し対応している。年に1回、法人弁護士による権利擁護の相談会を開催し、家族の相談に応じる体制がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域との連携に努めている。今年度は、運営推進会議で出された情報をもとに、地域内での最大の行事である大蛇まつりの見学・参加を行った。法人としても、「花の里祭り」を開催し、地域住民に広報し参加を募るなど、地域との連携を図っている。また、ホーム前の公園で地域の方がゲートボールの練習をしており、見学や交流を検討中である。日常的には、散歩や買い物へ行く時には近所の方々に気軽に声をかけたり、挨拶できる関係を築いている。今後は、地域密着型サービスとして、地域への認知症の理解を育む活動や介護の相談を受けるなど、ホームの認知症ケアのノウハウを活かし、地域との関係を高めしていくことが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「笑顔・尊敬・尊厳・安全」を掲げ、基本方針として「地域社会の一員として生活し、地域に貢献すること」を定め、地域密着型サービスとしての役割を果たしていくことを独自の理念としてつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やキッチンに掲げ、理念について管理者と職員が共有し、理念の実践と共有ができるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域との連携に努めている。今年度は、運営推進会議で出された情報をもとに、当地域内での最大の行事である大蛇まつりの見学・参加を行った。法人としても、「花の里祭り」を開催し、地域住民に広報し参加を募るなど、地域との連携を図っている。また、ホーム前の公園で地域の方がゲートボールの練習をしており、見学や交流を検討中である。日常的には、散歩や買い物へ行く時には近所の方々へ気軽に声をかけたり、挨拶できる関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘を受けた内容は改善に向けて取り組んでいる。自己評価は全職員で行い、外部評価の意義を理解している。外部評価により、日々のケアやサービス提供を行う中で、職員の責任感とチームワーク力が強化されている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの現状報告や評価結果や今後の課題などについて積極的な意見交換を行っている。また、運営推進会議では、「身体拘束について」や「鍵の取扱について」、「熱中症・脱水症について」などの学習の機会としても活かし、ケアやサービスの質の向上を図っている。今後は更に地域密着型サービスとして、地域へ向けて認知症の理解を育む活動などを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が派遣するあんしん介護相談員の受け入れやあんしん介護相談員との意見交換、サービス事業者協議会・認知症ケア研究会などを通して情報交換を行っている。また、運営面での困難時には市担当者に相談できる関係を築いている。今後は地域の社会資源の窓口として連携を図りたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している入居者はいないが、成年後見制度を含む権利擁護全般に関して、外部や内部研修会に参加し理解を高めるようにしている。法人に関わる弁護士があり、年1回グループホームの訪問があり、家族の相談に対応できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度「フェニックス苑だより」を発行している。個人別の写真を添え、入居者の健康状態や暮らしぶり・行事案内・家族会の報告などを行っている。また、必要に応じて電話での報告も行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。2ヶ月に1回、家族会を開催し、出された意見をもとに改善に努めている。また、家族からの意見は、苦情としてではなく職員教育として十分に検討し改善に取り組んでいる。運営推進会議においても、家族代表の参加があり、意見や意向を言ってもらえるように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成20年9月より常勤体制となり、入居者と職員がなじみの関係を築いていける環境を整えている。離職者が出た場合には、十分に引き継ぎの時間を取るようにし、入居者のダメージを防ぎたいと考えている。職員の固定化により、なじみの関係ができやすくなり、ケアも充実してきた。今後は更に入居者専任の受持制度を導入し、サービスの質の向上に取り組んでいきたいと考えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、有資格者(ヘルパー2級・準看護士など)を優先しているが、特に年齢や性別などの条件は規定していない。職員の経験や実績などを考慮し、個人の持つ能力が発揮できるように研修の機会を確保し、職員のスキルアップを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	毎月1回、第4金曜日に法人グループ全体で研修会を行っている。研修会では、「身体拘束について」「プライバシーの保護と取扱いについて」「人的環境と住居環境を考える」など、人権をテーマとした研修を行っている。また、全職員で人権に対する意識を高め、その人らしさ・当り前の生活の実現に向け取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に積極的に参加している。毎月、伝達研修を行い、研修内容が業務に活かせるように職員の意識を高め取り組んでいる。毎月、自己啓発票の提出に取り組み、職員本人が反省・努力の成果・疑問・要望・検討事項など振り返り、自己研鑽できるようにバックアップを行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小学校区ごとに、サービス事業者協議会・認知症ケア研究会などの研修が定期的開催され参加している。研修の機会を通して、同業者との情報交換やネットワークづくりを図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、見学を行っていただき、徐々に職員や環境に慣れ親しんでいただくよう取り組んでいる。また、入居の際には、家族やこれまで関わった関係者などに来ていただき、本人が安心して入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が困っている時や不穏な状況の時は、本人の意向を尊重し、ゆっくりと話を傾聴するようにしている。回想法により子どもの頃の話・家族の話・体験談などを通して職員は入居者の全体像を把握し、共に支えあう関係づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族より生活歴や暮らしぶりについての情報を把握し、日々の職員の関わりの中から得た情報を細かく記録し、全職員が入居者の状況を共有できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりがその人らしく暮らすために、思いや意向を十分に反映させ、また、職員間の意見を参考に介護計画を作成している。現在、採用しているセンター方式により、より本人の思いや意向にそった介護計画の作成を期待したい。		現在、採用しているセンター方式のアセスメントツールを有効活用することで、これまでの暮らしの継続や入居者の思いや意向にそった介護計画の作成が期待できる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに計画の見直しを計画担当者を中心に職員全員で行い、家族への説明を行うようにしている。アセスメントシート・介護計画・モニタリングシートをホーム独自で改良・改善することで入居者一人ひとりの状況の変化に合った介護計画になるように努めている。		
kai					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療法人であるため、医療連携を十分図っている。連絡や往診により健康面の管理を行っており、家族にとっては大きな安心となっている。また、法人全体で年1回「花の里祭り」を開催し、地域の方への参加の呼びかけなど、法人のスケールメリットを活かした取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり、内科医である理事長が毎日ホームを訪れ、健康状態を把握している。歯科医の往診も行っている。また、家族の希望に応じて通院や送迎など柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方については、協力医療機関との連携の中で、看取りを希望する場合は、職員と対応について協議し、医療担当者に助言を求め、対応可能であれば、希望を受け入れるという方針が定められている。今後、方針や同意書の準備を考えている。		医療連携加算により、終末期は、早い段階から家族・かかりつけ医などとの話し合いが必要であり、方針や同意書の準備が求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者を人生の先輩であるという意識を持ち、入居者に対する礼儀や人格を損ねないように配慮している。ミーティング時にはプライバシーに関して研修し、周知・意識向上を図っている。また、個人ファイルや記録などの個人情報にも配慮を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日のスケジュールはあるが、その日の入居者の希望・体調・状況に配慮しながら、声かけにより、行動を引き出すように個別に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は同法人の高齢者施設の厨房で作った料理(米飯は、ホームで作る)を利用している。おやつづくりは、毎日ホーム独自で行い、入居者の楽しみの一つとなっている。職員は、見守りや介助を行い、食事を楽しむ雰囲気づくりに配慮している。入居者は食事の準備や後片づけを行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	日曜日以外は毎日入浴できるように支援している。入浴を拒否される入居者の方々には、あまり無理をせず、職員の声かけなどの工夫で、入浴を楽しめるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や能力を活かして、手足運動・庭掃除・台所の手伝い・洗濯物たたみ・庭の手入れ・干し柿づくり・貼り絵・折り紙遊びなどの楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	機能低下により外出がなかなか困難な状況ではあるが、入居者の希望や体調に配慮し、近所のスーパーや公園に出かけるようにしている。また、季節ごとの行事や数ヶ月に1度の外食など楽しんでいただけるよう取り組んでいる。また、季節に応じて季節感を感じていただくためにクリスマス・イルミネーションなどの見学なども計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。職員は入居者の外出傾向を察知し、見守りなどにより、入居者の所在を確認している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け避難経路・避難場所の確認・消火器の使い方の訓練が実施されている。緊急連絡網や災害時の連絡機関一覧も目につくところに掲示されている。今後、AED・人工呼吸などの訓練も予定されている。今後の取り組みとして、地域住民の協力・参加が求められ、地域連携を期待したい。		今後、運営推進会議などを通して、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練を実施していくことが求められる。
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶や白湯をテーブルの上に置き、入居者がいつでも飲めるようにしている。水分量や食事摂取量は毎回確認している。また、状況に応じて刻みやミキサー食の方もいるが、咀嚼力をつけるための生活リハとして時間をかけながらも、普通食の摂取を大事に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
32	83	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	看護師寮を改修している。食堂に続くホールがあり広く開放的な共有空間となっている。入居者は、ソファやカーペットなど好きな場所でくつろいでいる。テーブルやソファ・飾り棚・季節の飾り付けなど、家庭的で居心地の良い空間づくりの工夫がある。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
33	85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安全性を重視し、入居者が使いやすい家具の配置となっている。なじみの家具や日用品が持ち込まれ、その人らしい落ち着いた居心地の良い居室となっている。		